

福井大学

福井大学の 特色ある取組

福井大学は、社会から頼りにされる“元気な大学”の実現を目指します。

2013年10月

グローバル人材育成

福井から世界へ



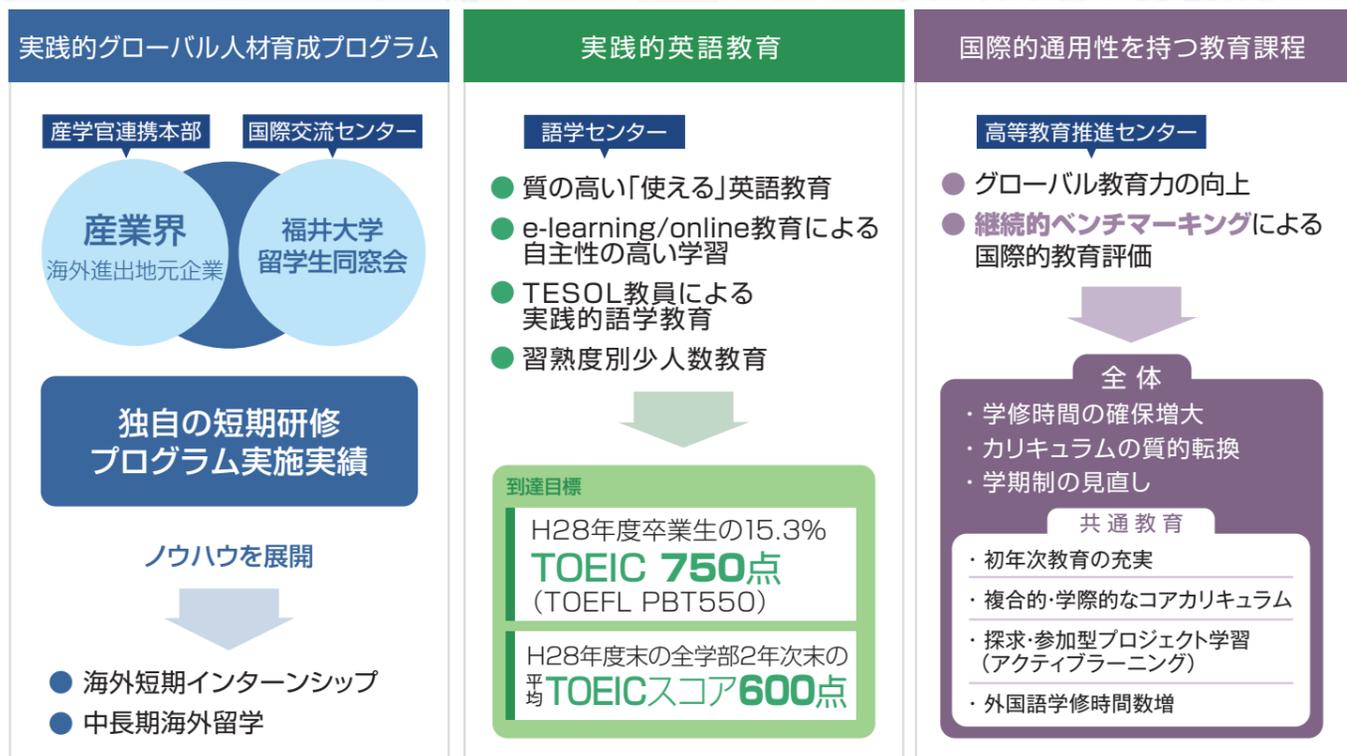
福井大学では長期目標として、「21世紀のグローバル社会において高度専門職業人として活躍できる人材の育成」を掲げています。平成24年度には、文部科学省の「グローバル人材育成推進事業」に、東海北陸地区の国立大学で唯一採択されました。本学の事業では、「世界的な視点をもった高度専門職業人の育成」を目標に、工学部・工学研究科が中心となってグローバル人材育成モデルの構築を目指します。

目指すは北陸地方のグローバル化の拠点に！

福井大学では、以下のような施策を推進し、地方の中小規模総合大学が実施可能な、これからの地方に必要なグローバル人材育成モデルの構築と実行を目指します。



「福井大学グローバル人材育成推進事業」概要



主な取り組み

学生のニーズに合わせた多様な留学プログラム

平成24年度春季休暇中だけでも6ヶ国11大学に延べ約130名が留学。語学研修やホームステイ、グローバル企業の見学などさまざまな経験を通して、語学力や異文化感受性などを培う。



タイでの実践的短期留学プログラム



アメリカ・クレムソン大学での留学風景



中国・浙江理工大学サマープログラム風景

2012年度海外留学実績（一部）

- アメリカ合衆国：ポートランド州立大学、クレムソン大学
- オーストラリア：モナシュ大学
- カナダ：トロント大学、オカナガン大学
- タイ：キングモンクット大学、スィーパトゥム大学、タマサート大学
- 台湾：中国医薬大学、国立成功大学
- 中国：上海理工大学、上海師範大学、天津工業大学、浙江理工大学
- マレーシア：モナシュ大学サンウェイ校、マラヤ大学、プトラ大学

「語学センター」による実践的英語教育

質の高い「使える英語」の習得のため、「語学センター」を中心にTESOL等を専門とした英語教育のプロフェッショナルによる実践的な英語専門教育を実施。
※TESOL(英語を母国語としない人々向けの英語教授法)

語学センターの交流スペース「Global Hub」には、留学経験豊富な学生スタッフ、英語インストラクターなど教職員が常駐し、リラックスした雰囲気の中、語学力を高め、メディアの活用や交流イベントへの参加を通して世界とつながることができる。また、総合図書館に開設した国内トップクラスの言語開発センター(Language Development Center: LDC)には、E-learningシステムや2,500冊以上の本・1,000本以上のDVD等の教材を備え、充実した自主学習環境を提供する。



英語インストラクターによる英語授業風景



Global Hubでの異文化交流



スピーキング練習が可能な遮音室の個別学習ブース(LDC)

国際的評価に基づいたカリキュラム改革

語学教育カリキュラム改革として、平成25年度より全工学部新入生に対し週2回の英語授業を実施。また、学期の始めと終わりにはTOEIC及び語彙テストを実施し、習熟度別少人数クラス編成による教育を実施。教育の国際的質保証や教員のグローバル教育力向上、職員の学生支援力量向上の観点から、海外の先進大学の視察・ベンチマークを実施。全学FD・SDシンポジウムや海外の先進大学から講師を招聘して外部評価を行い、カリキュラムや評価の改革、学習時間の確保や学期制の見直しなど国際的通用性を持つ教育課程の実現を目指す。



海外先進大視察風景



米ブラウン大学FDセンター長を招聘

オープンキャンパスに訪れた受験生の声
「福井大学にこのような充実した施設があると知らなかった。志望校の一つとして考えたい」

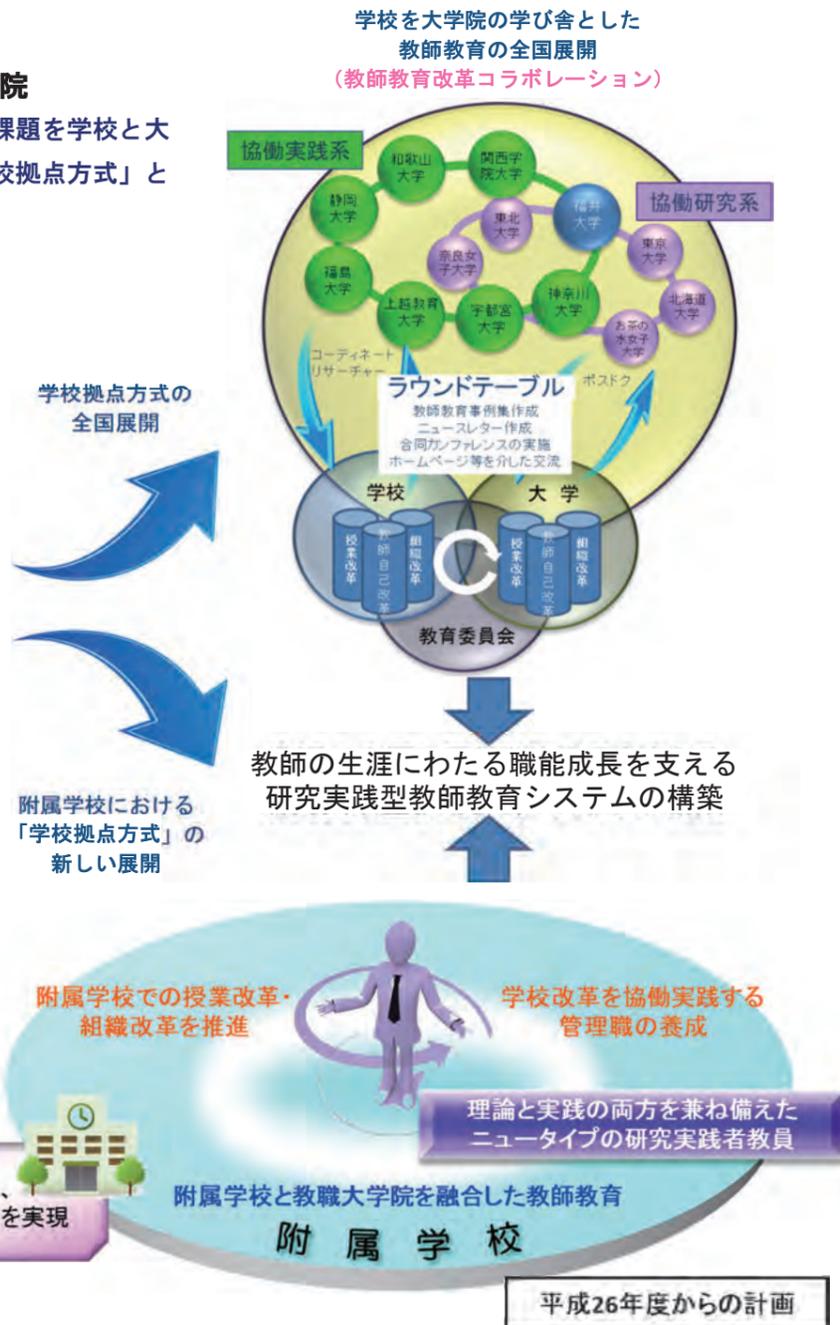
教員養成改革

福井大学の教員養成は、教育に携わる高度専門職業人として活躍できる人材の育成を積極的に推進しています。そのために、大学における従来の教員養成を抜本的に改革し、「**学校拠点方式**」と呼ばれる、地域の学校を拠点にした教師教育の革新を実現するための取組を進めています。この取組は国からも認められ、2012.8.28 中央教育審議会答申では「**教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について**」において**教員養成のモデルとして紹介**されています。

さらに、附属学校園を先端的教師教育研究の拠点と位置づけ、教育の質の高次化とそれに対応できる教員の養成のため、学部・研究科・附属学校園が協働して現場指導に取り組む、より一層緊密に連携した教育研究体制の構築を目指しています。

■「学校拠点方式」：学校現場が大学院

大学教員が学校に赴き、学校の抱える課題を学校と大学とが協働で取り組む教師教育を「**学校拠点方式**」と呼びます。



就職率6連覇

高い就職率！

「サンデー毎日」(2013年7月28日号)にて、2013年春卒業・修了者の全国240大学就職率ランキング(大学通信調査)が発表され、本学は複数学部を有する国立大学において6年連続1位となりました。卒業生1000人以上の国公立大学においても3年連続1位となり、高い就職率を保持しています。



就職率ランキング

卒業生数1,000人以上の国公立大学

順位	大学名(国私別)	卒業生数	就職者数	大学院進学者数	2011就職率	2012就職率	2013就職率
1	福井大学(国立)	1,235	906	289	94.7	95.8	95.8
2	名古屋大学(国立)	3,862	2,321	1,398	93.0	93.5	94.2
3	名古屋工業大学(国立)	1,614	886	667	91.4	-	93.6
4	東京工業大学(国立)	2,789	1,447	1,241	92.3	92.1	93.5
5	九州工業大学(国立)	1,677	1,012	594	90.5	95.3	93.4
6	愛知工業大学(私立)	1,264	1,080	100	89.6	91.5	92.8
7	芝浦工業大学(私立)	2,194	1,575	473	90.1	89.9	91.5
8	金沢工業大学(私立)	1,556	1,267	163	89.2	91.8	91.0
9	電気通信大学(国立)	1,458	844	524	91.6	87.8	90.4
10	昭和女子大学(私立)	1,206	1,054	38	86.1	86.7	90.2

大学通信調査の「全国大学就職率ランキング」就職率=就職者数÷(卒業生数-進学者数) 回答:全国546大学、全国平均79.6%

福井大学が就職に強い3つの理由

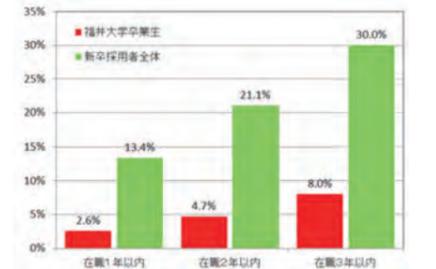
- 1.積極的なキャリア形成支援**
 - ・地域と密着した人間力育成事業の実施
 - ・日々進歩・変化する医療現場への適応能力育成
 - ・夢をかたちにする技術者育成の徹底
- 2.学生を支える充実した就職支援体制**
 - ・就職担当教員、キャリアカウンセラーが学生を全力支援
 - ・求人票をデータベース化し、学内や自宅のパソコンから閲覧できる「福井大学求人票閲覧システム」を運用
- 3.きめ細かな就職支援活動の実施**
 - ・充実した就職支援講座の開催
 - ・多くの企業との出会いの場の提供



企業人事担当者の声

(H25企業アンケートより)

皆大変真面目で意欲的に仕事に取り組んでいただいております。既に何件も自分の現場を抱えています。誠実で仕事に対する熱意を持っているため、安心して業務を任せることができます。社内での評価も非常に高く、ご入社いただけただけを本当に嬉しく感じております。



参考：福井大学の教育と卒業生についてのアンケート調査(平成23年3月実施)及び「新規卒就職者の在職期間別離職率の推移(厚生労働省HP)」

低い離職率！

在職期間3年以内の離職率(8.0%)は全国平均(30.0%)を大幅に下回っており、企業からその高い定着率が評価されています。



教育

人づくりを通じた貢献

(1) 地域を支える優れた人材の輩出

■教育地域科学部 ー地域の次世代を育てる教員の養成ー

- 福井県の教員数（小中高・特別支援学校）7,631人
- うち本学の卒業生数 3,099人



■医学部 ー地域医療を担う医療人の養成ー

- 福井県の医師数 1,922人
- （うち本学の卒業生数 562人）
- 看護学科では県内で唯一助産師を養成



■工学部 ー地域産業を創造する技術者の養成ー

- 福井県のエンジニア、科学研究者 11,590人
- うち本学の卒業生数 4,684人



※福井県のデータは、教：平成25年度学校基本調査、医：平成22年医師・歯科医師・薬剤師調査、工：平成22年国勢調査より。
福井大学卒業生のデータは、教：平成25年度時点、医・工：平成22年度時点の同窓会データより。

(2) 実践力重視の教員養成教育

■地域と協同する実践的教員養成プロジェクト

○学部教育

「ライフパートナー事業」

学生が、不登校児童生徒の学校、家庭を訪問し、「よき話し相手」として接し、交流を深め、児童生徒の自立を側面的に援助。一緒に活動する中で互いに信頼関係が生まれ、子どもの「心の支え」として活動



ライフパートナー事業報告会

「探求ネットワーク事業」

子どもたちと共に人形劇、気球・料理作り、まちかど調査隊などの探求活動を展開しながら、子どもの主体的な学習活動を支え、組織学習力を養う



探求ネットワーク事業

「教育実践研究」

学生が4年間かけて履修する総合実践プロジェクト。1年次から附属学校園等に出かけ、実践と研究を往還しながら活動



教育実践研究（教育実習）

○大学院教育

「学校拠点方式」：学校現場が大学院
小中学校の現場（拠点校、協力校）を大学院の教室に

(3) 高度な臨床能力を備え 地域社会のニーズに対応した 優れた指導的医療人の育成

■革新的画像医学教育：高度な画像診断教育で医師の「診る」を鍛える

医学画像教育専用サーバに登録した人体解剖画像、病理組織画像、CT、MR、PETなどの先進的臨床画像や分子イメージング画像を、臨床基礎科目および臨床実習の場で利用し、高度化・精緻化する画像診断を、十分に活用できる医師を養成

さらに、国内唯一の遺体専用CTとMRIとを有するAiセンターでは、死後画像を活用した先進医学教育、解剖所見との対比や画像解析を通じた終末期の臨床医学研究や医療安全評価、並びに警察の司法捜査や死因究明など地域社会にも貢献



医学画像教育用システムを活用する臨床実習

■看護：多様化する社会のニーズに応える専門的な看護力を育成

幅広い職業選択（看護師・保健師・助産師）が出来る独自カリキュラムを実施。県内で唯一助産師を育成
大学院附属の地域医療高度化教育研究センターでは、社会のニーズに対応した「慢性呼吸器疾患看護」や「手術看護」の認定看護師養成や学び直しの取組を実施



MRIによる撮影



看護実習

■全国初の大学院「地域総合医療学コース」の設置

大学院医学系研究科「統合先進医学専攻」に全国初となる「地域総合医療学コース」を新設し、地域に貢献できる臨床研究能力や教育的指導力を備え、地域医療をリードする、質の高い総合診療医・ER救急医・家庭医等を養成

(4) 夢を形にする技術者 IMAGINEER の育成

■創造力と実現力を育む創成教育

学生の自主性や創造性、知識・技能を総合して問題解決する実践的能力の育成を目的とし、学科・学年の枠を越えた学生グループで各自の専門分野の知識も活用して学際的・具体的問題に取り組む

- ・知能ロボット・プロジェクト
- ・デジタルクリエイター・プロジェクト
- ・エコロジー&アメニティ・プロジェクト
- ・フォーミュラカー製作プロジェクト



知能ロボットプロジェクト

■産業現場に即応する実践道場

業界の幅広い分野からの課題解決型の実践現場の提供とエキスパートの教育参加によって、広い視野をもち、自ら考え行動していく自律型産業人材の育成を目指す



フォーミュラカー製作プロジェクト

■大学院博士後期課程「総合創成工学専攻」の設置

- ・産業現場に即応する実践力を有した博士人材の育成
- ・多様な分野への出口を広げる「学際性・実践力」を付与する教育プログラムの実施

■採択された文部科学省等の公募型教育プログラム

- 学部教育
 - ・夢を形にする技術者育成プログラム（H20・GP）
 - ・学士力涵養の礎となる初年次教育の充実（H21・GP）
- 大学院教育
 - ・派遣型高度人材育成協同プラン（博士前期）（H18）
 - ・創業型実践大学院工学教育（博士前期）（H18）
 - ・学生の個性に応じた総合力を育む大学院教育（博士前期）（H19・GP）
 - ・産業現場に即応する実践道場（博士後期）（H22）
 - ・ポストドクター・インターンシップ推進事業（博士後期）（H23）

※GP(Good Practice)・・・文部科学省が選ぶ優れた取組

研究

科学技術の発展と
地域社会への貢献

(1) 世界／全国レベルの研究拠点をめざす

■国際的画像医学研究教育拠点

高エネルギー医学研究センター

サイクロトロン及びポジトロン断層撮影（PET）装置を用いて生体の機能や病態を画像化し、疾患の診断と予防に関する研究を推進（米国ワシントン大学やテキサス大学他と学術提携）



PET薬剤（放射性薬剤）製造用「サイクロトロン」

■遠赤外領域研究の世界的拠点

遠赤外領域開発研究センター

世界最高周波数（1テラヘルツ超え）を記録した独自開発の高出力遠赤外光源「ジャイロトロン」を応用した遠赤外領域の研究を推進（海外19機関と国際共同研究を展開）

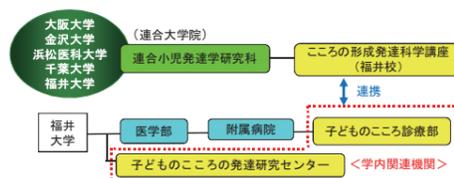


電磁波発生装置「ジャイロトロン」

■全学をあげての子どもこのころの諸問題の解明

大阪大学大学院 大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究所

本学が強みとする「画像診断による脳機能解明」に関する研究等を活かしALLJAPAN体制で、子どもこのころの諸問題の解明に取り組む。主に学校教員や心理士、看護師、医師、社会福祉行政担当者等を対象に、発達障害および子どものこころに関する高度専門家の育成を目指す。



子どものこころの発達研究センター

脳発達研究、養育者の支援や子どものうつ病研究等の実績をもとに、子どもの「こころ」の問題を解明し、治療・支援するための研究に取り組む。

- (1) シナプスでの情報伝達の新たな制御の仕組みを解明。
- (2) 自閉症診断マーカーとして血清中脂質が有用であることを確認。
- (3) 治療薬としてのオキシトシンの有用性について、日本の中核組織として検証実施



■繊維系大学連合による次世代繊維・ファイバー工学分野の研究および人材育成

大学院に「繊維・ファイバー工学分野」の専攻を有する信州大学、福井大学、京都工芸繊維大学が教育研究資源を連携・融合し、各大学の強みを活かし、3大学で繊維の世界をリードする繊維系大学連合の構築を目指す。

＜本学の強み＞

- ・電子線照射技術など繊維機能加工に関する研究が可能。
- ・ナノ繊維化技術や繊維の医療等への展開にも強み。
- ・地元繊維産業の現場に直結した研究や教育



繊維系3大学の学生が集う合宿研修

(2) 先端医工連携研究推進特区

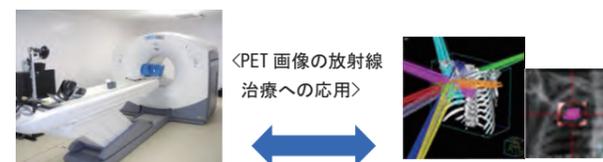
研究

科学技術の発展と
地域社会への貢献

平成25年度において、新たな科学的価値を創造する研究拠点として「先端医工連携研究推進特区」を新たに設置し、**5名の特区研究者を決定**しました。福井大学が強みを持つ医工連携の研究分野において、研究者の教育面や管理面の負担を軽減し、自由に研究が行えるよう経費支援や研究スペースの優先的使用に配慮し、**世界に通用する研究成果を生み出すことを狙い**としています。

高エネルギー医学研究センター 岡沢 秀彦 教授 「最先端画像工学による新たな診断法の確立」

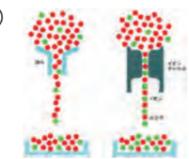
■福井大学が長年取り組んできた革新的なPET薬剤開発とそれを用いたPET診断技術は、国内外で高く評価されています。現在、この特色ある画像医学を更に発展させ、からだの臓器機能を分かりやすく描出し、がん治療などに役立つ新しい画像診断用薬剤と診断法の開発に取り組んでいます。近年こうした生体機能画像は、工学系技術とともにめざましく進歩していますが、本学では医工連携による新たな医療技術、画像工学技術を確立させ、先進医療への応用を目指します。



＜PET画像の放射線治療への応用＞

医学部医学科分子生理学領域 老木 成稔 教授 「イオンチャネルの機能とその構造の解明」

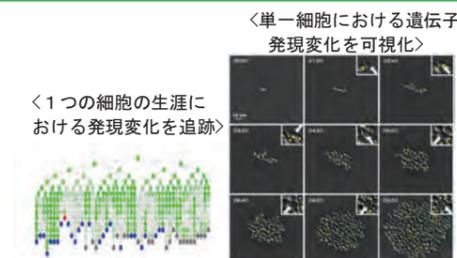
■あらゆる細胞を取り囲む細胞膜上には、細胞が情報処理を行うための「イオンチャネル」という膜タンパク質が存在します。生体には多種類の「チャネル」がありますが、共通してその中心を貫く穴（細孔）があり、ナトリウムやカリウムなどのイオンはこの細孔を通して細胞内外を高速で移動しています。細孔にはゲートという扉があり、イオンの流れを制御することで電気信号を発生し、神経などでは速やかに情報を伝えることができます。脳の活動や心臓のリズムは臨床的には脳波や心電図などの電気現象として捉えられますが、これらのもとにはチャネル活動があるのです。チャネルの機能が損なわれると、不整脈、高血圧、糖尿病など様々な疾患（チャネル病）が起こります。本研究では、1分子のチャネルが機能する姿を見ることにより、その仕組みを解明し、チャネル病の理解と治療への道筋を拓きます。



水分子とイオンの交互通過を世界初発見

大学院工学研究科 生物応用化学専攻 沖 昌也 准教授 「単一細胞の世代を超えた発現状態の変化を追跡するシステム」

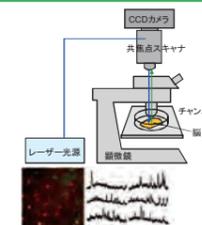
■本研究では、後天性疾患の原因解明に役立てられる「エピジェネティクス」の制御をうける領域において、従来の細胞集団ではなく、単一細胞で追跡するシステムを確立しました。この手法を使って、ストレスや低線量の放射線を浴びた場合などの外的要因が細胞に与える影響をエピジェネティックな遺伝子の発現状態の変化を捉えて解析し、寿命に対する影響や後天性疾患の原因解明に役立てていきます。



＜1つの細胞の生体における発現変化を追跡＞

大学院工学研究科 知能システム工学専攻 池田 弘 教授 「複数の細胞活動の同時イメージングによる脳機能の解明」

■脳機能の解明には、脳内の複数の細胞が作る複雑な回路を信号が伝わる様子を計測する技術が必要です。本研究では、生体において脳内の複数の細胞の活動を個々の細胞を同定した上で捉え、リアルタイムに同時計測できるシステムを構築していきます。また、これを用いて、感覚情報処理や感情、発達障害を中心に様々な脳機能の機構を解明することにより、医学の発展に貢献することを目指しています。



＜複数の細胞活動を同時計測するシステム＞

大学院工学研究科 材料開発工学専攻 川崎 常臣 准教授 「不斉自己触媒反応によるキラルアミン類の新規合成法の開拓」

■キラル化合物とは、左手と右手の関係のような実像と鏡像の関係にある分子をいいます。医農薬の合成中間体などとして重要なキラルアミン類の合成を、不斉自己触媒反応によって行う新規手法を本研究で開拓します。キラル触媒の構造と生成物であるキラルアミン類の構造が同一であるため、反応中に触媒が増え、高い反応効率を実現できます。また、反応終了後には両者の分離を必要としないため、製造の現場でも効率よく生産できるため、省エネ・コストダウンが見込めます。

研究

科学技術の発展と
地域社会への貢献

(3) 原子力防災を基軸にした 地域への貢献と情報発信

■附属国際原子力工学研究所

世界トップレベルの特色ある原子力人材育成及び研究開発を行い、環境と調和した持続的なエネルギー供給基盤を持つ世界の構築に貢献することを目的として、平成21年4月設置、平成24年3月敦賀市に移転。福井県嶺南地域の研究機関や民間企業等との共同・協力、地域に開かれた研究所として、講演会、セミナー等を通じた地域貢献を推進



研究所外観

実験室

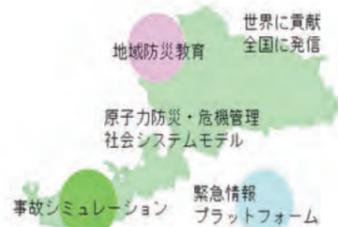
東電福島第一原子力発電所事故後の安全への取り組み

○原子力の安全性向上、防災危機管理の向上、地震・津波に強い原子力システム、適切かつ迅速な放射線防護対策等の研究や国内外の原子力の安全・防災に係る人材育成を進めるため、平成24年4月「原子力防災・危機管理部門」を設置



組織図(2013.4.1)

○地域の原子力防災力の強化を目指し、防災教育による人材育成、防災計画を検証する技術開発、緊急時の活動支援する体制構築などを周辺自治体等地域と連携し推進



地域の原子力防災

○日米仏、アジア地域の大学・研究機関との安全性向上に関する研究の推進、研修生の受入、学生の短期留学、研究所スタッフの派遣などを通じ、各国の安全技術の向上、国際的に活躍できる人材の育成を推進



国際シンポジウム

○格納容器の破損防止対策など原子力施設の安全性向上に関する基盤技術の強化・充実や高レベル放射性廃棄物の効率的かつ安全な処理方法など放射性廃棄物の減容等環境負荷低減に資する研究開発の推進



研究発表会

(4) 研究推進体制・機能の充実強化

■産学官連携本部, URAオフィス

○地域に根づくイノベーションエコシステムの整備

(目標) 地域企業に「技術開発」と「人材育成」に関するソリューションを提供し、その連携を通じて大学における多様かつ持続的な「知」の創出に貢献する。

【ふくい方式の産学官連携活動】

産学官でイノベーションをハイブリッド推進!

段階	内容	特徴
PLAN	地域の産業力強化戦略と先端・先進の「知」との融合による新しい地域共同研究プラン	人“財”の共有, 大学を“現場”とする作戦会議
DO	産業界を巻き込んでイノベーション創造チームを構成し, プロジェクト研究を実施	責任企業の設定, 製品化・事業化まで盛り込んだロードマップ作成
CHECK	研究成果を吟味して事業化への道筋を確認	企業内サテライト研究エリア, 大学内共同研究拠点設定などリソースの相互提供
ACTION	企業が利活用しやすい形への技術の洗練, 事業化の支援, 波及効果の明確化	学官が並走して事業化支援(省庁間橋渡し等), 官学協働で事業化までフォロー

教員, URA, 事務職「協働」による持続的産学官連携活動への取り組み事例

「ひとつ屋根の下」の協働!

「ふくい産学官共同研究拠点」

燃料電池やめっき処理, レーザー微細加工などの研究に必要な最先端の試作・評価機器を30種類設置し, 環境・エネルギーに関する共同研究を推進



企業と共同利用できる最先端計測機器

イメージを「見える化」する試作!

「インキュベーションラボファクトリー」

大学のもつ技術シーズを, 地域の「ものづくりの匠」の技を駆使して「試作品」を製作し, 市場性を問う。URA や地域人材の積極的関与を含めた広がりのある「見える化」を推進, 産業界への橋渡しへ



試作品の例 ((a) 冬虫夏草抽出品, (b) 油管理計, (c) リチウムイオン電池)

一心に「知」を創出に取り組むための組織づくり!

「ユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレーション(URA)」

研究者とともに研究活動の企画・マネジメントを行い, 大学における研究の卓越性を追求, 社会がわくわくする「知」の創出へ
文部科学省「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」事業採択(平成24年度: 全国で10大学)



教員とURAのシーズ・ニーズ議論風景

医療

すべては“患者中心の医療”のために

(1) 最高・最新の医療を安心と信頼の下で

- 県内で唯一の特定機能病院として先進医療を提供
「医療の砦」として最重症疾患患者を受入
- 大学病院初の北米型（ER）救急体制
一次救急から三次救急まで、全ての患者のニーズに応じた救急医療を、365日24時間体制で実践
- パートナーシップ・ナーシング・システム（PNS）と「看護総合力育成プログラム」の実現
 - ・全国初の「二人三脚方式」の病棟看護方式
 - ・新人看護師に対して育成チームによる支援体制
- 総合周産期母子医療センター
 - ・母胎・胎児集中治療管理室（MFICU）
 - ・新生児集中治療管理室（NICU）
 - ・新生児回復期治療室（GCU）
 - ・産科・小児科医師の連携により、リスクの高い妊婦や新生児を受入



全ての患者を受入
“地域医療の砦”として迅速に対応



ベテラン看護師とペアを組む若手看護師（PNS）



新生児集中治療管理室（NICU）

(2) 医学部附属病院再整備

■ 優れた地域医療人を輩出するハイクオリティーマディカルセンター

- 平成26年9月開院予定
- 5つの柱に沿って各施設を再編
「揺るぎなき地域診療拠点の構築」
「実践重視型教育環境の充実」
「福井ブランドの先進医療の開発・実践」
「快適・安全な医療空間の提供」
「堅固な経営基盤の構築」
- 消化器や呼吸器などの臓器・疾患機能別に病棟センターを整備し、内科、外科など従来の枠組みを超えた集学的診療体制による治療効果の向上を図る
- 手術用ロボット「ダヴィンチ」を始めとする先端医療機器の導入



完成イメージ



病室（モデル）

(3) 地域医療の担い手の育成

■ 「緊急被ばく医療に強い救急総合医養成」プログラム …地域のニーズに即した医療人の育成（（独）科学技術振興機構）

- 日常のあらゆる疾患を診療できる「総合医」
- 救急診療に関わる初期対応能力を備えた「ER型救急医」
- 有事に貢献できる「緊急被ばく医療専門医」

本プログラムの受講生が、東日本大震災時に現地で力を発揮し高い評価を獲得



■ 福井メディカルシミュレーションセンター

- 県内すべての医療従事者を対象に、多様な実技トレーニングのできる研修施設を整備。検査・治療等の疑似体験カリキュラムを導入し、地域医療人を高度化
- ・地域医療を志す医学生、看護学生、研修医、新人看護師の実技訓練
- ・救急対応の標準化
- ・県内医療従事者の生涯教育の充実



完成イメージ（松岡キャンパス内）

■ 医師派遣

- 福井県内唯一の医学部として、県内を中心に161の医療機関に医師を派遣

■ 僻地医療を遠隔診断により支援

- TV会議システム、遠隔病理診断及び遠隔画像診断による支援
- 専門ドック（腫瘍ドック、脳ドック）



TV会議システムを利用した医療支援

■ 産婦人科医が不足している地域の分娩を支援

- 分娩できる病院のない自治体（勝山市・大野市）の支援のため設備を整備し分娩を受入

■ 地域の医師は、地域が育て、地域が守る

- 和田診療所、高浜病院等において学生や研修医教育を通じて地域医療再生の鍵となる家庭医・総合医を育成



在宅診療を行う医師と研修医

社会貢献

(1) 国際社会への貢献

■東アフリカへの国際医学教育・医療支援

国際整形災害外科学会（SICOT）と協力し、東アフリカのウガンダ国立マケレレ大学に、整形外科分野の人材育成を目的に「外傷医学マケレレ教育センター」を開設
国際協力機構（JICA）からの要請を受け、福井大学へ現地医師を受入

○福井大学で2年学んだ現地医師の言葉
（ウガンダ マケレレ大学医学部勤務）
「以前は、脊椎の手術で問題のある背骨を取り除くしか知らなかった。痛みがひどく、まひが残ることもあったが、今は背骨を残して神経だけを抜く方法を身につけた。患者の負担が改善され、誇りに思っている。」



アフリカ人医師の研修風景

■UAEプロジェクト：乾燥地帯に潤いを

高温・乾燥地のUAE（アラブ首長国連邦）における植物栽培のため、水分保持に優れているポリマーを使った吸水性繊維編物を開発。芝生緑化や果物等の節水栽培を可能にし、土壌から水分蒸発を抑える技術の開発を目指す。



UAEでの実験の様子

(2) 東日本大震災復興支援

■災害医療支援の検証

○宮城県と福井県の行政機関等による災害医療支援の検証会を実施



災害医療支援検証会議の風景

■学生ボランティア派遣

○災害ボランティアについて、学生同士の座談会を実施
○福島県在住の子ども達と母親に対する遊びと語りの支援を実施



災害ボランティアに関する座談会

■水産物の放射線物質測定支援

○水産物の汚染に関する調査を目的とした、放射線物質の測定による支援を実施



水産物の放射線物質測定

■その他の主な支援

○震災直後から医師派遣を継続的に実施
○被災地支援の経験を受け止め主体的に動ける学生の育成
○被災者の心のケア
○医師によるエコノミー症候群予防検診及び検討会の実施

（現在継続中の支援）

社会貢献

(3) 教育・研究の成果を地域社会へ

■福井大学きてみてフェア

大学の教育や研究について、体験しながら学ぶコーナーや学生の授業発表などを通して、広く地域の方々に紹介



ライトレースロボット体験



南アフリカの太鼓ジェンベに合わせて踊るサークル「よっしゃこい」の学生

■展示企画

学生、教員、公共施設との連携のもと、図書館や病院内施設における所蔵資料などの展示公開



「グリフィスと福井」増補改訂版 出版記念展



「日本一短い手紙」と「かまぼこ板の絵」の物語コラボ展

■公開講座

教育・研究・診療の成果を活かした学術的・文化的講座や、地域住民のためのブラッシュアップ及びキャリアアップのための講座など、多彩な講座の開催



電子レンジでガラス作品



キンボール入門

■生涯学習市民開放プログラム

市民の方々に授業を開放して生涯学習の機会を提供するとともに、地域社会と大学の連携を推進



修了証書授与の様子

■語学学習環境

英語を学習したい市民の方々に語学自主学习ができる言語開発センターを開放

学生の輝く姿

地域に根付く学生の活動

■永平寺消防団大学生防災サポーター

医学部学生が「機能別消防団員」として入団し、様々な地域防災計画に基づく訓練等に参加。大学で学んだ専門知識を生かして、大規模災害時の避難所等で応急救護での活動が期待されている



永平寺消防団救命講習会

■たわら屋

地元の田原町商店街と学生が連携して、空き店舗を利用した活動拠点を作り、商店街の活性化のために様々な企画を共同で実施。活気を取り戻しつつあると、全国紙にも取り上げられ、注目されている取組



学生目線で人が集まるイベントを企画（たわら屋にて）

■Fukui Play-Studio 遊房

子どもが持つ「素」のココロを大切にし、子どもたちの遊び空間を提供することで生きる力を育む手助けをする。どろんこ祭りやダンボールハウス作りなどイベント等の企画を通して子どもたちと一緒に学び、感じ取ることを目的に活動を展開



どろんこ祭り

■雑木林を楽しむ会

福井大学隣に広がる3000㎡の雑木林を、地域の人々と共に守り、楽しむことを目的に発足。清掃活動、ツリーハウス設置、バーベキュー大会、映画上映会など活動を広げ、「自然と人間が共生できる森の創成」を共通テーマにワークショップを開催



雑木林に巣箱を設置

■Enjoy Mytown Project

教育地域科学部学生を中心に福井駅周辺の課題についてまちあるきを中心に駅前の魅力を知ってもらうために活動。地域の子供たちとともに「理想の駅前プロジェクト」に取り組む



「理想の駅前プロジェクト」ポスター

福井大学の實力

国立大学は6年毎に、その活動状況について国の評価を受けます

第1期中期目標期間評価 地方総合大学1位

(H16からH21年度)

■福井大学の教育・研究・社会連携・国際交流・業務運営に対して高い評価を獲得

全国86国立大学の中で総合7位

順位	大学名	総合評価ウエイト
1	奈良先端科学技術大学院	71.00
2	滋賀医科	64.75
3	浜松医科	60.64
4	お茶の水女子	59.93
5	東京工業	59.76
6	東京	58.96
7	福井	56.24
8	東京外国語	56.00
9	東京医科歯科	55.43
10	京都	53.96

国立大学評価委員会（文部科学省）が公表する基準による評価ランキング

地方総合大学中1位
北信越ブロック1位

項目別評価点

	教育	研究	達成状況	業務運営	総合評価
福井大学	8.58	3.50	4.00	6.00	56.24
86大学平均	6.14	2.80	3.49	5.93	45.65

※総合評価=(教育+研究)×3+(達成状況+業務運営)×2
※福井大学事務局調べ

福井大学の理念

福井大学は、学術と文化の拠点として、高い倫理観のもと、人々が健やかに暮らせるための科学と技術に関する世界的水準での教育・研究を推進し、地域、国及び国際社会に貢献し得る人材の育成と、独創的かつ地域の特色に鑑みた教育科学研究、先端科学技術研究及び医学研究を行い、専門医療を実践することを目的としています。

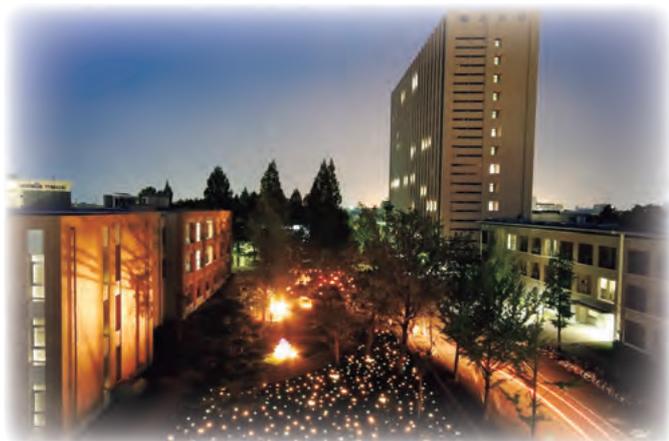
このような理念を踏まえ、福井大学では、次の4点を長期目標として、教育、研究及び社会貢献などを推進します。

長期目標

1. 福井大学は、21世紀のグローバル社会において、高度専門職業人として活躍できる優れた人材を育成します。
2. 福井大学は、教員一人ひとりの創造的な研究を尊重するとともに、本学の地域性等に立脚した研究拠点を育成し、特色ある研究で世界的に優れた成果を発信します。
3. 福井大学は、優れた教育、研究、医療を通して地域発展をリードし、豊かな社会づくりに貢献します。
4. 福井大学は、ここで学び、働く人々が誇りと希望を持って積極的に活動するために必要な組織・体制を構築し、社会から頼りにされる元気な大学になります。

明かりで心に感動を

■LEDを使った明かりプロジェクト



キャンパス内を彩るキャンパスイルミネーションのほか、地域のイベントを照らす明かりプロジェクト。毎年、永平寺大燈籠ながしでは、和ろうそくの色とゆらぎを持つLEDの明かりが幻想的な夜を映し出します。



☆福井大学にはどんな研究をしている先生がいるの？

大学のHPから福井大学に所属している研究者（教員）情報を検索できます。
<http://www.u-fukui.ac.jp/>

所属組織・職名・氏名に加え、専門分野やキーワード検索もできます。ぜひご活用下さい。

●大学へのご意見・ご質問について、お気軽にお寄せ下さい。

福井大学広報センター

〒910-8507 福井県福井市文京3丁目9番1号 TEL:0776-27-9733 FAX:0776-27-8518

メール koho@ad.u-fukui.ac.jp HP <http://www.u-fukui.ac.jp/>

発行 福井大学総合戦略部門経営戦略課
発行日 平成25年10月1日